

アクティブ・ラーニングの理論と実践

(理論編)

横溝紳一郎
(西南女学院大学)

アクティブ・ラーニングとは何か？ 栗田(2017:11)

- 学生を巻き込んだ、学生自身が活動し、その活動自体について思考する取り組みの全て (Bonwell & Eison 1991)
- 授業において、学生が単に「見たり」「聞いたり」「ノートをとったりする」以上の活動をするようにデザインされた教授内容に関係すること全て (Folder & Brent 2009)
- 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称 (中央教育審議会 2012)

アクティブ・ラーニングとは何か？

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

溝上(2014:7)

日本語教育分野で、
アクティブ・ラーニングを
どう定義すれば
いいんだろうか？

外国語教育におけるアクティブ・ラーニングの 先行研究を調査してみると...

「アクティブ・ラーニングとは何か？」という定義づけは、ほとんど試みられていない

「主体的・対話的で深い学び」の特徴を描写している。

その上で、「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか、具体的な方法の提案をしている。

2019年6月6日



日本語教育でのアクティブ・ラーニングの定義再考

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、**あらゆる能動的な学習のこと**。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

溝上(2014:7)

アクティブ・ラーニングの定義

頭(mind)がアクティブに関与していること

エリザベス・F・バークレー(2015)「関与の条件—大学授業への関与を理解し促すということ—」松下佳代編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、pp.58-91.

アクティブ・ラーニングとは何か？

- 脳が活発に働くことで生まれる、あらゆる学習の総称。
- その実現をめざすことが、授業改善のきっかけとなり、教師としての成長につながる。

横溝・山田(2019)

学習の能動性について(松下2015:18-19)

		内的活動	
		低	高
外的活動	低	D	B
	高	C	A

授業改善の視点



よい授業かどうかを
判断するための
チェックリスト

授業改善の視点1

学習者の学びが成立するように心がけているか

- a. どうしたら、学習者は学びやすいか
- b. どういうことばを使ったら、学習者は分かりやすいか
- c. どういう質問をしたら、学習者は考えやすいか
- d. どういうふうに接したら、学習者は受け入れてくれるか

授業改善の視点2

学習者の多様性に対応しているか

- a. やる気
- b. 年齢
- c. 学び方(学習スタイル／学習ストラテジー)
- d. 学習不安

授業改善の視点2

学習者の多様性に対応しているか

- e. 母語能力
- f. 現在の日本語能力(レベル差)
- g. 学習習慣
- h. 学習動機／目的

授業改善の視点3

適切な学習環境を提供できているか

- a. 安心して学べる
- b. 楽しく学べる
- c. 協力して学べる
- d. お互いに讃え合い、祝い合い、ほめ合う

授業改善の視点4

学習者が主体的／積極的に学ぶ機会を提供できているか

- a. 授業中に学ぶ(動いたり、考えたり、体験したり)
- b. 授業外で学ぶ(宿題など)

授業改善の視点5

学習者にとって意味のある内容や中身になっているか

- a. 内容・中身が面白い
- b. 内容・中身が深い
- c. 文脈化がなされている(誰が・誰に向かって・何のために表現するのかを明確にした上で、表現活動を行っている)

授業改善の視点5

学習者にとって意味のある内容や中身になっているか

- d. 個人化がなされている(自分について話したり書いたりしている)
- e. レベルが適切である(日本語レベル、知的レベル等)
- f. 自己表現が、相手理解・相互理解につながっている

授業改善の視点6

学習者に自己選択・自己決定の機会を与えているか

- a. 学習者に、教材のレベルの自己選択・自己決定の機会が与えられている
- b. 学習者に、制限時間の自己選択・自己決定の機会が与えられている

授業改善の視点7

時間枠を設けて活動をさせているか

- a. 機械的ドリル等の比較的単調な活動を行う際、長くやりすぎない
- b. 沈黙考型の活動を行う際、十分な時間を確保し、その時間が予め伝えられている
- c. 話し合い活動を行う際、十分な時間を確保し、その時間が予め伝えられている
- d. 身につくまでの十分な練習時間が確保されている

授業改善の視点8

ふり返りやフィードバックの時間を設けているか

- a. 各学習者によるふり返り
- b. 学習者間のふり返りの共有
- c. 教師からのフィードバック

授業改善の視点9

「見通し」を与えているか

- a. 達成目標（「評価規準」「CAN-DOリスト」「ルーブリック」）
- b. 「その活動によってどんな力がつくのか」が、学習者に伝えられているか

やってみましょう！

9つの「授業改善の視点」と、自分の実践を比較してみよう！

- それぞれの視点のポイント(a, b, c...)にどのくらい配慮して授業ができているか、自己評価してみよう。

○ = できている、△ = 微妙、

× = (あまり)できていない